SEKISHO ART MUSEUM

石正美術館 ミュージアムニュース

アフロディア

「舞妓座像」1970（昭和45）年（部分）／個人蔵 【「生誕100年 回顧展 石本 正」より】

SEKISHO ART MUSEUM
MUSEUM NEWS No. 151
Spring 2022

生誕100年 回顧展

石本正

4/26(火)以降、一部展示替えがあります。

会 期 変 更

2022. 2.22［火］— 6.12［日］

観覧料

当日券	一般800(700)円 高校・大学生300(240)円 小・中学生200(160)円	
前売券	一般600円 ローソン各店(Lコード62803) ※販売期間 2022/6/12(16:30まで)	

※( )内は20名以上の団体料金
※「しまね家庭の日」毎月第3日曜日に家族で来館された高校生以下の観覧無料

【主催】公益財団法人浜田市教育文化振興事業団
朝日新聞社　中国新聞社
【後援】浜田市　浜田市教育委員会
【協賛】NISSHA株式会社

展示構成

第一章　画家となる
第二章　画家としての挑戦
第三章　中世ヨーロッパと舞妓の画家
第四章　花と裸婦
第五章　絵をかくよろこび

注目の展示

《作画の原点》をあらためてじっくりと観る

このたびの展覧会では、石本の九十五年の生涯を五つの章に分けてご紹介しています。それぞれの時代における画風の変化を順に追いながら、彼が表現したかったものや目指したことが、少しでも作品から伝わりやすくなるように意識した並び方で展示しています。

そんなわけで今回は特に、各章ごとに内容の濃い充実した展示になっているので、「見どころはどこですか?」と聞かれたら「全部」と答えたいところです。

ただ、そんな中でも、このたび特にご紹介したいのが、石本の作画の原点に触れる《五条坂風景［五条坂］》(※以下《五条坂風景》)関連の展示です。

《五条坂風景》は三十代の代表作として、当館で何度もご紹介してきた作品のひとつです。

「対象への感動が作品を描かせてくれるのをこの時程感じた事はありません」と語り、石本が自身の作画の原点として生涯手元に置いて大切にしていたものです。

かすかに茜色を残す空に、古い家並みの形がくっきりと浮かび上る五条坂の夕景。静寂の中、シミの浮き出た古い壁の色は西日を受けて刻々と変化していく。その様子に郷愁と感動を覚え、細かい部分を全て切り捨て、家の形を線と面だけで捉えて写生しました。その後何度も同じ場所に行きましたが最初の写生を越えるものはできず、その時の写生をそのまま大きくして本画を描いたそうです。

戦後間もなかった発表当時、古くさい絵と評価されたりもしました。描きたいものを描いたという満足感と自信があった作品でしたが、それ以降の十数年、作風は大胆なデフォルメや新しい技法を積極的に取り入れたものへと変わっていき

最初の感動を描きとめた写生を
そのまま本画に。

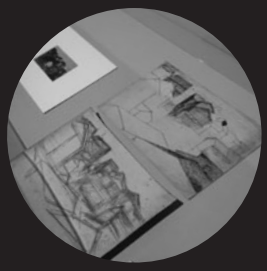
写生

五条坂風景［素描］1950（昭和 25）年／浜田市立石正美術館蔵

大下絵

五条坂風景［大下絵］1950（昭和 25）年／浜田市立石正美術館蔵

※大下絵は、本画を描く前の原寸大の下描きのこと。
30 代の頃だけ大下絵を描いていましたが、その後は
本画用のパネルに貼った紙に直接描いていました。

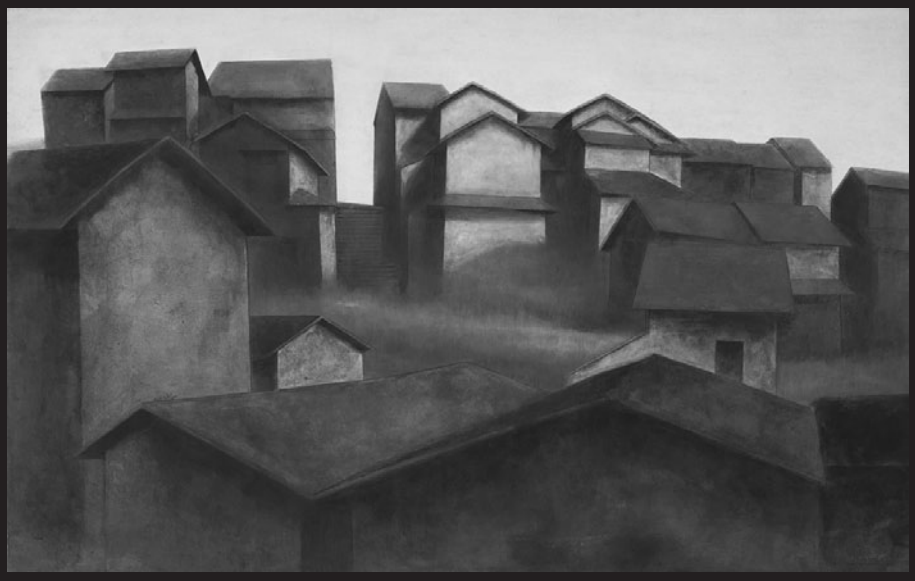


初公開

同じ構図で、ペンやコンテをつかって描いた素描。線や面の工夫が見られ、表現の模索をしていたことがうかがえます。
4/24（日）まで展示。

「たそがれの光に浮かび出た京都の古い家並み
―それを線と面だけで構成した、
青系のモノトーンの作品である。
今でもありありとその時の情景が目にうかぶ。
坂の上の家々が、空に切りこむようにそびえ、
手前に大きな家が黒々とあった。
私はシミの浮き出た古い家の壁が、
西日を受けて微妙に変化するさまを描きたかった。」

石本 正



本画

五条坂風景〈五条坂〉1950（昭和 25）年／個人蔵（浜田市立石正美術館寄託）

ました。後年このことを振り返り、もし《五条坂風景》のような仕事をずっと続けていたなら、もっともっと良い絵が描けたのではないかという言葉を残しています。

会場では、最初の写生と思われるものや大下絵だけでなく、五条坂周辺を違う表現で描いた作品なども同時に展示し、作画の原点として位置づけるに至った試行錯誤の様子を見る事ができます。

会期中、一部展示替えを予定しておりますので、《五条坂風景》関連すべての作品を一度に見ることができるのは、四月二十四日（日）までとなっています。

回顧展関連素描展

回顧展期間中、石正美術館ギャラリーでは、石本の創作の原点ともいえる素描展を同時開催しています。

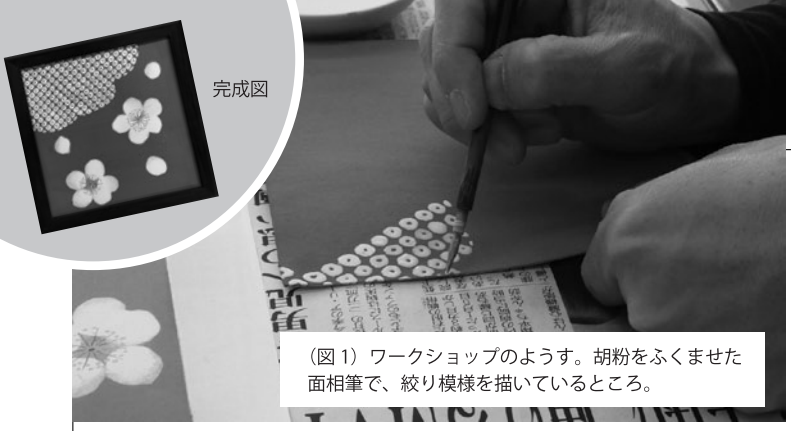
②花　3月19日(土)～4月8日(金)
…画家が愛した花と生命（約15点）

③人物　4月9日(土)～4月28日(木)
…女性表現の移り変わり（約30点）

④風景　4月29日(金)～5月19日(木)
…ヨーロッパスケッチ（約15点）

※②③の最終日は15時まで
※ギャラリーのみの観覧は無料

着物の模様と石本正



（図1）ワークショップのようす。胡粉をふくませた面相筆で、絞り模様を描いているところ。

三月十二日（土）に、「生誕一〇〇年 回顧展 石本正」の関連イベントとして【絵の中の着物の模様を描こう】というワークショップを行いました。

絵の中の女性たちを美しく飾ってあげたいという気持ちで、石本先生が心を込めて描いた着物の模様。その模様を実際に描いてみることで、作品に向かう先生の姿勢や思いを追体験してもらおうと企画したものです。

今回体験してもらったのは、回顧展のポスターにもなっている作品《のれん》の舞妓さんの着物の模様を描くことです。この着物には、「瓢箪（ひょうたん）」「松葉」「雲」「菊」「梅」の五種類の模様が描かれています。このうち「雲」と「梅」にチャレンジしていただきました。

梅は大きめの丸を五つ組み合わせるだけの簡単な図柄ですが、「雲」は小さな絞り模様の集合体で表現されているのでちょっとだけ難易度高めです。あらかじめ朱色の絵具を塗って用意していた十五センチ角の和紙の台紙に、胡粉という白い絵具で描いていきます。先生の作品によくみられる「絞り」の表現は、五ミリほどの丸を描きつつ中心の小さな点は塗り残さなくてはいけないので、筆を持った手が慣れるまでけっこう難しいんです。ちょっと気を抜くと点がつぶれたりもします。しかも、小さな丸といっても少し四角っぽいというか、角のない四角といった微妙な形なので、筆を動かすのに少しだけコツが必要です。皆さん制作中ずっと集中されていて、創作室は静まり返っていました。集中するとおしゃべりするのも忘れてしまうのは、楽しい証拠です。

実際に描いてみると作品を見る時の視点も変わってくるようで、「先生の模様は全部一発描きなのね」とか、「絞りの中にも偶然できた濃淡があって、不揃いでも自然なリズム感がある」「場所によって朱の色味が微妙に違う」など新たな発見や感想も生まれていました。なにより、「時間を忘れるくらい楽しかった」と言ってくださる方が多かったのが印象的でした。石本先生も、着物の模様を描いているとき心から楽しかったんだろうと思います。そうでなければ、着物一面に絞りで模様が描かれているような作品を何枚も描いたり、模様を全部自分でデザインするなんてことはしないでしょう。そのことを体感してもらえたことが、企画した私にとって何より嬉しく感じたひとときでした。

また、石本先生は楽しく描いていただけでなく、まとわせる着物によって女性の心情や個性をもあらわそうとしていた事がうかがえる言葉があります。それは、川端康成から頼まれていた『伊豆の踊子』の挿絵として作品を描いたあと、そのことについて思いを記した自筆原稿の中の一文です。

『この「踊子」のイメージは言うまでもなく先生の伊豆の「踊り子」のイメージにそくして描いたものでありますが、能装束を意識し過ぎたために、やゝ綺麗すぎつくりすぎた様な気もします。木綿の着物を着せた方がもつと親しみ易い女態を、そしてはかなく消える愛の悲しみを、表現できたのではないかと思つてゐます。』

石本正自筆原稿『伊豆の踊り子』の挿畫について』（一九七二（昭和四十七）年頃）より抜粋

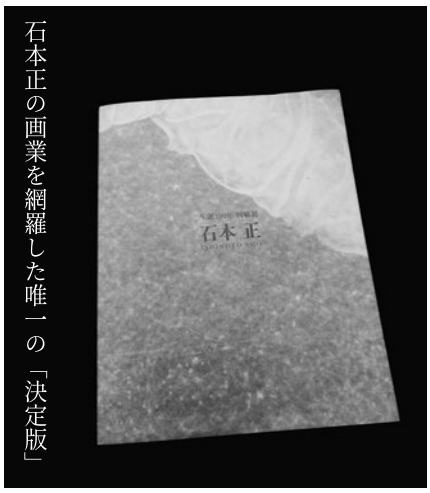
文中の「踊子」とは、回顧展にも展示中の《二人の踊子》（図2）のことで、上の女性は『雪国』の駒子、下は『伊豆の踊子』のイメージでそれぞれ描いたものとされています。川端小説の中の、報われない愛にひたむきに生きる女性たちの美しい表現に憧れを抱いていた石本正。その世界観を自分なりに表現してみたものの、描き上げたのちにも、彼女たちの個性を的確にあらわすための着物の表現について思いをめぐらせていたことが伝わってきます。

着物の模様に着目してみるだけでも、画家としてのさまざまな思考やねらいが見えてきて、作品そのものがグッと近くなったような気がします。今後も、今回のようなワークショップを企画出来たらいいなと思っていますので、またぜひご参加ください。（横山）

（図2）《二人の踊子》1972（昭和47）年
浜田市立石正美術館蔵

生誕100年 回顧展 石本正 図録紹介

見どころ満載の回顧展
実はその図録も見どころ満載なんです



石本正の画業を網羅した唯一の「決定版」

定価 2,500 円　A4 変形　カラー／モノクロ
264 ページ（石正美術館ミュージアムショップ、朝日新聞社オンラインショップにて好評販売中）

回顧展出品作※200点を完全収録

石本正の図録としては過去最多となる200点を収録。青年時代から最晩年まで、画業の全貌を紹介しています。

（※当館以外の展示作品を含む）

◎大型作品は観音開きで大きく掲載

対（つい）の大型作品である屏風《舞妓》は、ページを両観音開きにし、アップと全体像を同時にご覧いただけるレイアウトにしました。

二つの屏風に描かれた画風の異なる舞妓の姿をぜひ見比べてみて下さい。

95年の生涯を5章に分け、時系列で紹介

各章のターニングポイントとなる出来事はコラムページで深掘り。当時のエピソードを詳しく知る事ができます。

沢山の方々にご寄稿いただきました

「展覧会に寄せて」澤木 祐子（石本正先生ご息女）
「官能性と宗教性」建畠 晢（多摩美術大学学長）
「石本芸術のこと―石本正先生追想」淺木 正勝（丸栄堂代表取締役）
「石本正の芸術」（再録）河北 倫明（美術評論家、1914～95）

（掲載順、敬称略）

【その他掲載文】

「画家 石本正との出会い、そして今―石正美術館の誕生とその後」平坂 常弘（石正美術館 初代館長、現 顧問）
「ヨーロッパ美術巡礼の旅」西久松 吉雄（石正美術館 館長）
「石本正という存在―戦後京都における日本画のゆくえ」田野 葉月（元 島根県立美術館 専門学芸員、現 滋賀県立美術館 学芸員）
「石本正の生涯」横山 由美子（石正美術館 主任学芸員）

装丁にもこだわりました

◎図録の顔ともいえる「表紙」

石本正のエッセンスを、言葉ではなく視覚的に伝えるものでありたい。そんな思いで作られたのがこの表紙です。生涯「透ける肌の美しさ」を求め続けた石本を象徴するように、カバーはあえて透け感のある素材をセレクト。羊雲のような模様が入った厚手のトレーシングペーパーのカバー越しに、表紙に印刷された女性像がうっすらと透けて見えるデザインになっています。表紙中央に控えめに印字された展覧会名は、シンプルながらもゴールドを使用し特別感があります。

表紙になっているのは《艶（えん）》という作品。図録を開いて最初の扉絵にも《艶》のもとになったと考えられる素描を採用し、石本の女性美を前面に押し出しました。

カバーを少しずらすと…

中扉

◎『内容充実＝厚い』けれども『軽い』図録を目指して

石本正の集大成ともいえる図録を、一人でも多くの方にご覧いただきたい、手に取っていただきたい。けれど「厚くて重い」図録は、時にお客様のその後の道中で負担となり、敬遠されてしまう…。

それをクリアしようと紙質にもこだわって作られました。一見すると従来の紙と変わらないように見えますが、厚みのわりに軽く、めくり心地が良く、もちろん図版の発色も鮮やかな紙が採用されています。ショップに見本が置いてありますのでぜひ手に取ってご覧ください。「この厚さのわりには軽いかも」と思っていただけたら幸いです。

その他、充実の作品解説・略年譜・参考文献目録なども所収

イチオシ！

回顧展オリジナルグッズ紹介

石正美術館ミュージアムショップにて、回顧展会期中のみの期間限定販売です。

A4 クリアファイル

440 円（税込）

ポスターにもなっている《のれん》。白い小花柄のプリントと、白から透明にグラデーションになっているデザインが清楚です。桜の花びらが舞う色違いのものもあります。

マスキングテープ

440 円（税込）

石本正の描く着物の柄やじゅうたんの模様、花の作品を集めたデザインなど計 4 種類あります。

★4/26～5/8は休まず開館！
※5/9は休館

石正美術館の sekisho art museum ゴールデンウィーク 2022

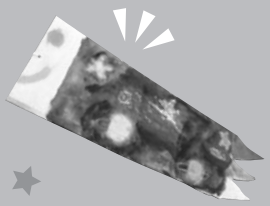
5.5 祝

石州和紙（せきしゅうわし）で こいのぼりをつくろう！

13時～15時　　要申込み【定員】10名

参加費 500円　　場所：石正美術館回廊（雨天時創作室）

浜田市三隅町の伝統工芸品「石州和紙」を使って、こいのぼりを手作りしてみませんか？
いろいろなパーツと組み合わせて、世界に一つだけのこいのぼりを作ろう！



創作教室

金箔入り石州和紙で お花の壁飾り

講師：ちくちくさん（三隅町）

4.17 日
13 時～ 15 時

参加費 1,500 円　　要申込み【定員】10 名

持ち物：のり又はボンド、ピンセット、はさみ

透け感のある水滴柄や金箔入りの石州和紙を使って、お花の壁飾りを作ります。和紙そのものの色味を生かしたシンプルなデザインで、場所を選ばず飾って楽しめます。

（全長約 70cm）

創作教室

スイーツ粘土「パンケーキのメモスタンド」

講師：琴野和世さん（アトリエカロス）

5.7 土　　参加費 600 円　　要申込み【定員】各回 10 名

時　間
①13 時～
②14 時～
③15 時～

（スタンド含め 高さ約 8cm）

スイーツ粘土を使って、パンケーキ型のメモスタンドを作るワークショップです。
小さなフライパンに粘土で作ったパンケーキとアイスを乗せ、本物そっくりのフルーツやソースでデコレーション。服や手につきにくい軽量樹脂粘土を使いますので、親子そろっての作品づくりにも最適です♪

講演会

「生誕 100 年 回顧展　石本 正」特別講演会

石本正の回顧展から 見えてきたこと

講師：田野 葉月 氏（滋賀県立美術館 学芸員）

5.14 土　　13 時 30 分～ 14 時 30 分　　参加無料　　要申込み【定員】30 名

元・島根県立美術館専門学芸員で、この度の回顧展企画に深く関わっていただいた田野氏に、近代日本画を専門とする視点から本展を通して日本画家・石本正について見えてきたことをお話しいただきます。

島根県立美術館での回顧展

講演会

「生誕 100 年 回顧展　石本 正」特別講演会

石本正―創造の旅―

講師：西久松 吉雄
（当館館長、創画会常務理事、成安造形大学名誉教授ほか）

4.30 土　　13 時 30 分～ 14 時 30 分

参加無料　　要申込み【定員】30 名

石本正の教え子の一人でもある当館館長による講演会です。「石本先生の創造の原動力とは？先生が憧れたヨーロッパのフレスコ画や日本の仏像、また同時期に活躍した周辺の画家の作品などと比較しながら、独創性ある石本作品を紹介します。」

SCHEDULE 石正美術館スケジュール

石本正記念展示室	企画展示室	ギャラリー	ミュージアムパフォーマンス・創作教室
3	生誕100年 回顧展 石本正 2.22 火 → 6.12 日 【前期】4.24 日まで 【後期】4.26 火から 一部作品展示替え	3.19 土 → 4.8 金 **生誕100年 回顧展 石本正 関連素描展** **② 花** 【入場無料】 最終日は 15 時まで	3.26 土 14時～14時40分 【開場】13時45分 しだれ桜クラシックコンサート **「春を奏でる ～石本正が愛した音楽とともに～」** 出演：Duo アフェッティ 定員：30名（要申込み） 会場：石正美術館回廊（中庭） ※天候により創作室 無料 要申込み
4			4.17 日 13時～15時 **金箔入り石州和紙で お花の壁飾り** 参加費：1,500円 詳細は右ページへ→ 参加費 要申込み
		4.9 土 → 4.28 木 **生誕100年 回顧展 石本正 関連素描展** **③ 人物** 【入場無料】 最終日は 15 時まで	4.30 土 13時30分～14時30分 【「生誕100年 回顧展 石本正」特別講演会】 **石本正―創造の旅―** 詳細は右ページへ→ 無料 要申込み
			5.5 木・祝 13時～15時 **石州和紙で こいのぼりをつくろう！** 参加費：500円 詳細は右ページへ→ 参加費 要申込み
5		4.29 金 → 5.19 木 **生誕100年 回顧展 石本正 関連素描展** **④ 風景** 【入場無料】	5.7 土 ①13時～ ②14時～ ③15時～ **スイーツ粘土 「パンケーキのメモスタンド」** 参加費：600円 詳細は右ページへ→ 参加費 要申込み
			5.7 土 14時～14時45分 【「生誕100年 回顧展 石本正」関連イベント】 **学芸員によるギャラリートーク** 参加費：観覧料のみ 観覧料
6		5.21 土 → 6.12 日 **令和3年度 石正美術館 絵画教室作品展** 【入場無料】	5.14 土 13時30分～14時30分 【「生誕100年 回顧展 石本正」特別講演会】 **石本正の回顧展から 見えてきたこと** 詳細は右ページへ→ 無料 要申込み

6.13 月 → 7.4 月　燻蒸作業・展示替休館　CLOSED

SEKISHO ART MUSEUM

利用ごあんない

開館時間　9：00～17：00

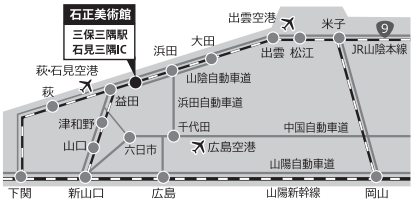
休 館 日　**月曜日**
〔月曜日が祝日の場合開館・翌平日休館〕
燻蒸作業・展示替え期間
〔令和４年６月13日(月)～７月４日（月)〕

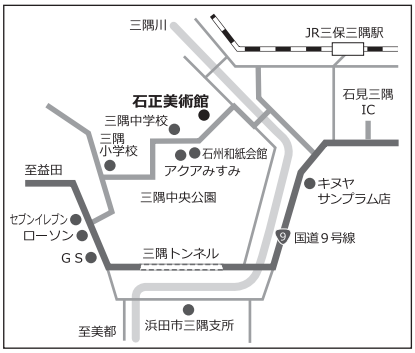
観 覧 料　**一般　800円（団体700円）**
高校・大学生　300円（240円）
小・中学生　200円（160円）
前売券　一般　600円（※詳細２ページ）

※20名以上は団体料金。
※身体障がい者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方は半額。介助者は無料です。
※「しまね家庭の日」毎月第３日曜日は「しまね家庭の日」(家族連れの高校生・中学生・小学生は無料)。

石正美術館へのアクセス

●最寄駅 三保三隅駅から車で５分
●ＪＲ山陰本線 浜田駅から三保三隅駅まで列車で20分
●広島駅から浜田駅まで高速バスで２時間
●浜田自動車道 浜田ＩＣから車で20分
●山陰道 石見三隅ＩＣから車で３分
●萩・石見空港から車で40分





石正美術館 ミュージアムニュース
アフロディア
No.151
Spring 2022
令和４（2022）年３月24日発行
編集・発行 浜田市立石正美術館

〒699-3225 島根県浜田市三隅町古市場589
TEL 0855-32-4388　FAX 0855-32-4389
Eメール　sekisho@mx.miracle.ne.jp
http://www.sekisho-art-museum.jp/
石正美術館　検索

石正美術館
サポーター募集

活動を「楽しんで」いただける方、お待ちしています。

色々な人と知り合いになれた！

活動を通して心が豊かになる

ポスター・チラシ発送

「チラシの仕分け」「封入」など簡単な作業です。作業の候補日をメール等でお伝えします。

展示替え

「キャプション付け」「額拭き」など軽作業もあります。特に「額拭き」は新しい展示を一番に観ることができ、微細な絵具の粒子が見えるほど近づいて作業できる絶好のチャンスです！

美化活動

草取りなど外観の美化に力を入れています。

イベント補助

ワークショップ
石正美術館まつり
いわみの冬至祭「光の回廊」
創作活動やイベントのお手伝い、準備や片付けなど。

研修旅行・講習会

サポーター向けの勉強会、講習会を開催。芸術に関する様々なことを学んでいただけます。
他の美術館での取組みを見学する楽しい研修旅行もあります。（令和４年度の開催は未定）

その他
●ポスター掲示　●くちコミ広報　●手話
●外国語通訳・翻訳　など

できること　を　できるときに
どうか皆さんの力をお貸しください！

ぐーちゃんのつぶやき

中庭できれいな声がきこえたんだ！
セキレイさんていうんだって。
おともだちになりたいな。